

住民主体のまちづくり活動がなぜ必要なのでしょう？

都市が健全な発展を続けていくためには、住民がそこに魅力を感じ、生活し、住み続けたいと思うような環境が必要です。また、そのような環境は、住民がより一層の快適性等を求めて「まち」の抱える課題・問題の解決に向け、積極的に取り組んでこそ創造できるものであり、これが「まちづくり」にほかならないものです。しかし、「まち」には、それぞれに違った歴史や人々の暮らしがあり、その様子もさまざまです。

「まちづくり」では、それぞれの「まち」の特性にあったものづくりやルールづくりが必要です。

「まちづくり」を円滑に進めるためには、住民自身が「まち」の課題・問題を認識して意見を出すとともに、広く「まちづくり」について検討をおこない、住民と行政などが協力しながら、その「まちづくり」を進める必要があります。

まちづくりの動機

まちの宝を残したい

- 古いまちなみや歴史的な遺産を残したい
- まちの自然を残したい
- 水辺を有効に活用したい



周辺環境を良くしたい

- すべてのひとが安全、快適に行動できるまちにしたい
- 路上駐車や放置自転車をなくしたい
- 花や緑が豊かなまちにしたい



まちの環境が変わる

- 工場が移転したので跡地を含め活性化したい
- 道路や鉄道の整備を機会にしてまちのイメージを変えたい
- 大規模施設が立地して人の流れが変わったのでまちを変えたい



防災面などで対策をしたい

- 建物が建て詰まって火事が心配
- 道路が狭く緊急車両などが入れない
- 古い建物が多く、地震などの災害が心配



• まちづくりを検討しはじめる動機となっているのは、個人だけでは対応できない様々な必要性が生まれた時といえます。

誰がまちをつくるのか？

「まちづくり」は住民や企業などがつくるものと行政がつくるものと住民・企業と行政が協力してつくるものに分けることができます。そこで「まち」に必要なものやルールは住民や行政などが役割分担をし、お互いに協力し合いながらつくっていく必要があります。